

発行人 馬場武彦
 発行 社会医療法人ペガサス
 大阪府堺市西区浜寺船尾町東4-244
 http://www.pegasus.or.jp/
 編集 ペガサス広報委員会 編集グループ
 編集協力 HIPコーポレーション
 発行 / 平成23年1月1日

HEADLINE

11月6日大阪・梅田の毎日イベントにて、「第6回日米ジョイントフォーラム in 大阪」(主催…社会医療研究所、共催…社会医療法人ペガサス馬場記念病院、はあとふるグループ医療法人永広会、(株)ヘルスケア経営研究所)が開催されました。この講演は、コーディネーター役の岡田玲一郎氏(社会医療研究所所長)のご尽力により、毎回、米国の第一線で活躍する医療の専門家をお招きし、特定の医療テーマについて語っていただくもの。6回目を迎える今回は、講師として3名をお招きし、「多種連携時代における専門職種への伝え方」をテーマに、医療人としての役割行動や行動規範について講演とパネルディスカッションをしていただきました。今年も100名もの参加をいただき、米国の医療におけるさまざまな取り組みから多くのヒントを得ようと、皆さま熱心に耳を傾けていらっしゃいました。



講演の第一部では、医療コーディネーターのスーザン・モーツ女史による「アメリカにおける看護師の役割行動」、第二部では、弁護士「医療機関における医師の行動規範」、第三部では、岡田玲一郎氏による「本日の講演と日本の将来」に関する講演を。第四部では、リー・ビックラー医師を座長にパネルディスカッションが行われ、医療の未来について活発な意見交換がなされました。今後も、ペガサスでは、医療従事者をはじめ、地域の皆さまに役立つ情報交換の場を多く提供していけるよう努めてまいります。

馬場記念病院整形外科では、平成22年12月より「手の外来」がスタートしています。手の外来とは、その名の通り「手」を専門に診る診療領域です。手は、運動器のなかでは小さな器官ですが、内部には骨や関節、そしてそれを取り巻く筋肉や腱、また、神経や血管が張り巡っており、身体の内側でも複雑で繊細な構造を持つ部分です。そのため、たとえ指先のほんの小さなケガでも、何かの損傷を受けると、手の機能は著しく低下し、日常生活での不自由さ、不便さを生むことに繋がります。そうした手のケガや病気を治療するのが「手の外来」です。手のしびれや痛み、粉碎骨折の整復・固定や、失われた運動機能の再建など、さまざまなケガや病気を対象としていきます。治療に際しては、年齢や性別、職業、家族構成など生活背景を充分に見つめ、どの治療が、その患者さまの生活の質を向上させるかを大切にしたい、きめ細かな対応に努めています。



上肢・手外科
診療部長
釜野雅行

「手の外来」を担当する釜野雅行医師は、整形外科領域のなかでも「手」の専門家であり、日本手外科学会の専門医・評議員です。手のケガ、病気など、さまざまな治療にあたりますが、なかでも高齢者に多い橈骨遠位端骨折(とうこつえんいたんこっせつ)／多くは、こゝろんで手をついた際におこる骨折の治療は得意領域です。長年に亘る研究と臨床での実績をベースに、低侵襲で安全な手術方法を確立するとともに、手術に必要な医療用具の開発も自ら行っています。こうした手に専門特化した知識と技術を最大限に活かし、患者さまの早期社会復帰を患者さまとともにめざし、お一人お一人に最適な治療を行います。

釜野雅行医師が開発した医療用具は特許を得ており、その特許料は「あしなが育英会」に寄付されています。

好評により、第6回を迎え、今回も100名の方が参加してくださいました。

講演と意見交換で多くの人と共に考えた、医療の未来。

複雑で繊細な構造を持つ「手」。生活背景に合わせた治療が必要です。

手に専門特化した医師が、患者さまの早期社会復帰を支えます。

Report *1
日米ジョイントフォーラム開催
医療人としての役割行動・行動規範を
テーマに講演していただきました。

Report *2
「手の外来」がスタート。
あなたの「手」の悩みを
解決します。

診療時間	診療科	月	火	水	木	金	土	
馬場記念病院	内科 循環器科	1診	山下 啓 (循環器)	坂本常守 (循環器)	難波雅司 (循環器)	平田明子 (内科)	坂本常守 (循環器)	田口晴之/島田健永 第1・3・5週/第2・4週 (ともに循環器)
		2診	平山道彦 (循環器)	田中秀典 (呼吸器)	周藤弥生 (糖尿病)	羽野吉弘 (呼吸器)		若山公作/羽野吉弘 第2・4・5週/第1・3週 (ともに呼吸器)
	外科 消化器科	外・消1診	金原 功	坂下克也	渋谷雅常	金原 功	寺岡 均	大平 豪 第1・3週
		外・消2診	原 順一	寺岡 均	真下勝行	渋谷雅常	平田直人	大平雅一 第2・4・5週
		外・消3診		河内屋友宏		原 順一		北田拓也 (肝臓病)
	脳神経 外科	脳外科1診	宇野淳二	伊飼美明	魏 秀復	宇野淳二	魏 秀復	交替制
		脳外科2診	徳永 聡	馬場武彦	徳永 聡	長岡慎太郎	伊飼美明	
		脳外科3診	藤本基秋	甲斐康稔	藤本基秋	松尾吉紘	甲斐康稔	
		脳外科4診	長岡慎太郎					
	(脳)神経 内科	(脳)神経内科1診	高橋光雄	北口正孝	峯田春之	北口正孝	平賀定一	濱田征宏
		(脳)神経内科2診	中谷芳美	千本裕子	西本和弘	楠 進/平賀定一 第1・3週/第2・4・5週	長谷川隆典	
	整形外科	整形外科1診	本田良宣	山北真也	三木慎也	本田良宣	山北真也	交替制
整形外科2診		篠塚宗徹	岡垣健太郎	篠塚宗徹	山田敏行	岡垣健太郎	岡田充弘 第1・3週	
整形外科3診		釜野雅行	吉田 映		吉田 映	三木慎也	庄司恭之 第1または、第3週(背椎)	
形成外科		山本喜英	山本喜英			山本喜英	山本喜英/矢野 基 交替制	
午後診 9:00~ 受付 8:30~12:00	内科				坂本常守 (循環器)			
	(脳)神経内科		北口正孝		玉垣芳則 (在宅酸素)	北口正孝		
	整形外科		池尻義隆/松本亜希 第2週/第1・3・4・5週 (ともに認知症外来)		南部泰孝 (睡眠時無呼吸外来)			
	泌尿器科		岡垣健太郎(関節の外来) 装具外来(14:00~14:30)	釜野雅行 (手の外来)		装具外来 (14:00~14:30)		
午後診 14:00~ 受付 13:00~15:00	形成外科							
	泌尿器科		野澤昌弘		清水信貴(予約検査) 梅川 徹(診察のみ)	辻 秀憲		
馬場病院	午前診 9:00~12:00 受付8:30~12:00	内科外来	久保俊彰	交替制	新田敦範 (外科)		千本裕子 (脳神経内科)	交替制
	午後診 15:00~18:00 受付14:30~18:00	外科外来	担当医(脳神経外科) 新田敦範(外科)	本田良宣 (整形外科)	担当医 (脳神経外科)	山本喜英	北口正孝 (脳神経内科)	
ペガサスクリニック	午前診 9:00~12:00 受付8:30~12:00	1診	永田安德	永田安德	永田安德	永田安德	永田安德	永田安德 第1・3・5週 矢野 基 第2・4週
	夜診 18:00~19:00 受付17:30~19:00	2診	宇治義正	担当医	宇治義正	宇治義正	宇治義正	岡本隆司 第1・3週 田中秀典 第2・4・5週
ペガサスクリニック	午前診 9:00~12:00 受付8:30~12:00	1診	永田安德	担当医	宇治義正	宇治義正	担当医	
	午後診	2診	担当医	矢野 基	担当医	担当医	永田安德	
ペガサスクリニック	午前診 9:00~12:00 受付8:30~12:00		中林孝之	峯田春之	中林孝之	中林孝之	中林孝之	中林孝之
	午後診		往診	往診	往診	往診	往診	

ロイヤルリゾート石津

からのお知らせ

陶芸教室で素敵な器ができました

10月21日、高齢者専用賃貸住宅ペガサスロイヤルリゾート石津では泉北郡の窯元 喜楽歩(きらくぽ)から先生をお招きし、陶芸教室を開催しました。14名の参加者が茶碗、お皿、湯のみ、マグカップ、小鉢から1つを選び、陶芸に挑戦。多くの方が初めての経験でしたが、次第に慣れてくると形や模様にも凝る方も。1時間半ほどで素敵な器ができました。作品は先生が持ち帰られ、釉薬を塗った後焼成し1カ月後に完成。それらの作品は12月中旬までロビーに展示され、訪れる人やご入居者の目を楽しませてくれました。ロイヤルリゾート石津では、こうした陶芸教室・書道教室・写真展など、いろいろなイベントを催し、日々の生活を豊かなものにしていきます。今年のご入居者の方々も100名を越え、和やかな雰囲気の中、楽しいお正月を迎えることができました。



お問い合わせ・お申し込み

お客様相談室 フリーダイヤル 0120-565-878

入居対象 自立～要介護5までの方、年齢不問

※生活保護受給世帯・市町村民税非課税世帯の入居も可能です。ご相談ください。

ペガサス脳卒中センター ペガサス消化器センター ご存じですか!

馬場記念病院では、脳神経外科の医師とコメディカルとのブレインチームによる「脳卒中センター」、また、消化器科と外科とのチームによる「消化器センター」を設置し、高度な専門治療の提供を行っています。

1月のペガサスセミナーは、

知っている便利な社会保障制度

講師：寺内 淳・磯西 将大

馬場記念病院 地域医療部 医療福祉相談室

日時：1月18日(火) 午後2時～3時

場所：馬場記念病院 1階 ロビー

法人本部からお伝えしたいことがあります。

ペガサス医療体験デイ 就活バージョン 今年最初の開催日決定!

ペガサスでは、毎回好評の「ペガサス医療体験デイ 就活バージョン!」を1月15日に開催します。これは今春卒業予定の看護学生にペガサスをよく知ってもらい、将来の進路決定に役立てていただくために行うものです。当日は、馬場記念病院の病棟・院内等の見学、ペガサスの教育プログラムや各種制度の説明等、学生の皆さんの興味に幅広く応える内容となっています。また、先輩看護師を交えたティーパーティーも予定しており、より気楽な雰囲気のなかで先輩の話聞くことができます。どうぞ気軽にご参加ください。



看護師
求人サイト



看護師
動画サイト



※詳しくはペガサスのホームページをご覧ください。http://www.pegasus.or.jp/

馬場記念病院からのお知らせ

より良い地域医療をめざし、 勉強会を開催しました。

馬場記念病院では、当院と連携をしてくださる地域の診療所、病院の先生とともに、年に数回「馬場記念病院勉強会」を行っています。平成22年11月18日には、第35回目をペガサスセンタービルにて開催。副院長・西尾俊嗣の司会により、社会医療法人ペガサス理事長・馬場記念病院院長馬場武彦のご挨拶からスタートしました。今回は、消化器科、放射線科、(脳)神経内科の三名の医師が、症例や診断、治療法に関わる講演を、また、院長の馬場武彦からは、今後の地域医療で重要な役割を果たす地域連携バスについて、その実際と今後のより良いあり方についてお話をしました。

ペガサスはこれからも、こうした医師を対象とした勉強会、また、一般の方へのセミナーなど、さまざまな機会を通して、より良い地域医療、健康的な生活を皆さまとともに見つめていきます。

講演

- 胆石症、胆のう炎、胆管炎について
消化器科 部長 原 順一
- 地域連携バスの運用実績報告と今後の課題
病院長 馬場武彦
- 胸部単純写真のビットホール
放射線科 部長 山田哲也
- 視神経脊髄炎の一例
(脳)神経内科 副部長 峯田春之

Special

馬場記念病院 最前線

シリーズ

13

脳卒中センター

365日24時間体制で
脳卒中患者さまを受け入れ、
高度な医療を提供しています。



では、そもそも脳卒中とはどのような病気でしょうか。「卒中」とは「卒然(突然)」として、悪い風の中(当たる)という意味の言葉です。つまり、脳が突然、悪い風に当たり(血管の閉塞や出血が生じ)、倒れるという症状の総称が脳卒中なのです。

万全の救急医療が 患者さまを救う第一歩。

脳卒中はその語源が示す通り、元気だった人が突然倒れる病気です。したがって、発症直後の救急医療がなによりも重要になります。そのため当院では平成18年6月に、S CU(脳卒中集中治療室)を開設し、脳卒中センターの環境整備に着手。さらに平成20年4月から、救急隊の電話を脳神経外科の医師が直接受ける「脳卒中ホットライン」をスタートするなど、救急システムの高度化を進めてきました。今日、脳神経外科領域におい

ては、昼間はもちろん夜間も常勤医8名が交代で当直(この他に脳外科研修医2名が交代で週2回当直)し、24時間いつでも脳卒中患者さまを受け入れる体制を確立しています。こうした体制の充実を受けて、このたび「脳卒中センター」と改めて呼称し、地域の皆さまへのさらなる周知を図ることになりました。(脳卒中専門医5名、脳神経外科専門医7名)

か。当センターではその場合の治療ガイドラインを明確に定め、必要に応じて即座に検査や緊急手術/血管内治療を行う体制をとっています。このように、脳神経外科医が常に身近に診て、最適な治療法を選択し、万一の場合は緊急手術/血管内治療を行えることが、高い治療実績と患者さまの安心に結びついていると思います。

回復期リハビリ テーションと連携し、 患者さまを支える。

また、脳卒中は後遺症を伴うことが多く、急性期だけで終わる病気ではありません。当センターでは、超急性期の段階から積極的なリハビリテーションに取り組みとともに、院内の回復期リハビリテーション治療と密接に連携し、患者さまの後遺症の回復に全スタッフが「一丸となって取り組んでいきます。さらに法人全体で、慢性期、在宅療養に至るまで、切れ目なく患者さまを支える仕組みも確立しています。広義に捉えれば、このように救急から在宅まで必要な医療を継続して提供していくことこそ、脳卒中センターの使命であると考えています。



制の継続とさらなる高度化に
取り組み、脳卒中から一人でも
多くの患者さまを救っていきたく
いと切望しています。

馬場記念病院副院長
脳卒中センター長
脳神経外科部長
魏 秀復